宇都宮市学校教育推進懇談会（会議録）

Ⅰ　日　時　　平成１９年６月２８日（木）　１５：００～

Ⅱ　場　所　　市役所１３階　教育委員室

Ⅲ　出席者（敬称略）

１　懇談会委員

木村　寛，山田　葉子，小野口睦子，佐々木英明，金柿　説生，地神　久郎，
伊藤三千代，石嶋　勇，島田　好正，植田　俊夫，設樂　富男，沼尾　栄子

２　事務局

伊藤教育長，鈴木教育次長（学校担当）

教育企画課　　宇梶課長，生田指導主事，原口指導主事
学校管理課　　高島課長補佐
学校教育課　　大島課長，菊池課長補佐，髙橋係長，福地児童生徒指導担当主査，
初谷副主幹・管理主事，影山副主幹・指導主事，
宇賀神指導主事，小塙主任
学校健康課　　倉田課長，樽井指導主事，横嶋指導主事
生涯学習課　　赤石澤課長補佐，渡辺主任
教育センター　久保所長

Ⅳ　内　容

○　開　会　（全体進行：菊池補佐）

１　教育長あいさつ

２　委員紹介　資料名簿による

木村会長あいさつ：プランの進捗状況を聞き，委員の皆様から，今後の方向性などに対して，率直に意見を述べていただく。全国に先駆けた計画であることからも協力いただきたい。

３　議　題　（協議進行：木村会長）

・木村会長：本会議の公開について，事務局から説明願いたい。
・事務局　：本会議及び会議記録は，前回会議で決定したとおり公開とする。

(1)　平成１８年度における「宇都宮市学校教育推進計画（“いきいき学校”プラン）」の推進状況について

・木村会長　：資料１，２について事務局から説明願いたい。

［施策の柱１］・事務局から説明

・木村会長　：施策の柱ごとに協議を進める。
Ｐ３を見ると，正答率の状況に▼印が多い。

教育課程が変わったことが影響しているのか。

・事務局（影山）：昨年度の中学３年生は，小学５年生から現行の学習指導要領の下で学習しており，特に影響はないと考えている。

・島田委員　：Ｐ７にあるコミュニケーション力は，どのような授業で育成を図っているのか。

・事務局（影山）：話し合いなどを効果的に取り入れた授業づくりにより育成を目指しており，学校訪問の際には，重点的に指導・助言している。

・山田委員　：社会体験学習において企業側で受け入れ数が減っていると聞くが，学校が独自に体験場所を探しているのか。

・事務局（高橋）：市では，商工会議所，青年会議所などの協力を得て，受け入れ先の確保，活動のＰＲを行っている。また，デパートなどは市で取りまとめているが，学校近辺の体験場所は学校が独自に確保している。

・地神委員　：情報モラルについては，具体的にどのように指導しているのか。

・事務局（影山）：中学校では技術・家庭の技術分野において，情報モラルの必要性を学ばせるとともに，小学校では，総合的な学習の時間などでコンピュータによる情報収集などを行う際に，著作権や情報モラルを取り扱っている。また，道徳，特別活動においてもルールやマナーについて指導している。

・事務局（高橋）：情報モラルについては，児童生徒指導の視点から，危険性や犯罪性について指導している。また，情報モラルを「親学」において取り上げ，指導主事が学校に出向いて講話するなどしている。なお，このことは，後半の「いじめについての意見交換」でも触れたい。

・木村会長　：後半の意見交換でも触れることとしたい。

［施策の柱２］・事務局から説明

・木村会長　：施策の柱１に比べ，指標の達成状況は，良好といえる。

・植田委員　：基準年より読書量がかなり増えているのは，どのような取組によるものなのか。

・事務局（高橋）：本年度から，学校図書館司書業務嘱託員を全校に専任として配置し，読書活動などを推進している。また，図書を学級や教室近くの廊下に置くなどして，子どもがすぐに本を手に取れる状況をつくるとともに，全校で一斉読書などを行っているためと思われる。

・沼尾委員　：専任の学校図書館司書が，授業に参加したり，ブックトークをしたりすることなどが，効果的である。

・事務局（渡辺）：市の図書館が図書パックを平成１８年４月から開始した。

・木村会長　：始業前の読書の時間の確保や学校図書館司書の授業参加など，本を読むきっかけをどうつくるかが大切である。

・植田委員　：最終年度の数値を上げてもよいのではないか。

・島田委員　：豊かな心を育むためには，畏敬の念も必要である。指導する機会を確保することは難しいと思うが，形がなく，見えないものを敬うことは，どのように指導しているのか。

・事務局（影山）：道徳の時間の中で，自然への畏敬の念や崇高な生き方などを学ばせている。また，学校行事での様々な体験や外部講師の話を通して，自然や崇高なものとのかかわりを指導している。

［施策の柱３］・事務局から説明

・佐々木委員：Ｐ１２の中学生の「覚せい剤を使うべきではない」は，「使ってはいけない」ではないか。

・事務局（高橋）：ご指摘のとおり。資料１を訂正する。

・植田委員　：Ｐ１５の食育について，家庭との連携を図るため，具体的な取組を示すとともに，何のための食育かをきちんと押さえることが必要である。

・事務局（倉田）：昨年度は，啓発のためのビデオや資料を作成し，子どもと保護者両面から食育への意識の高揚を図るとともに，「親学」に関連させて，保護者への支援を進めてきた。

・石嶋委員　：幼稚園連合会で朝食についてのアンケートを行ったところ，４％の欠食の家庭があった。保護者が集まるたびに朝食を食べさせるよう話しているが，近い将来親となる大学生や若い社会人にも，朝食の大切さを理解させる教育も併せて行うべき。

・木村会長　：最近の大学生は朝食を食べるようになってきていると感じている。

・事務局（樽井）：保護者への啓発も含め，食育を進めていきたいが，本当に聞いて欲しい人には聞いてもらえない状況があり，課題となっている。

・小野口委員：授業の中で食事をつくる学習もしていると思う。子どもが重要性を感じれば，自分で作ってでも食べるのではないか。空腹になると食欲も増すことから，体を動かす指導も必要ではないか。

・事務局（樽井）：知識だけでなく，人と人とのつながりを大切にした体験を大切にし，運動と食育を関連付けていきたい。

・地神委員　：ランチルームの整備よりも，交流給食や親子給食などの心の育成に関わる取組が大切ではないか。朝食をとることができない子どもへの対応として，ソフト面の充実を図って欲しい。

・事務局（樽井）：ランチルームの整備については，多くの人と交流しながら食事を楽しむためにも充実させていく。そのような取組を進める中で，

支援が必要な子どもへの対応を考えていきたい。

［施策の柱４］・事務局から説明

・金柿委員　：暴力行為の数値は，暴力行為の定義などにより変わるものである。最近の傾向として，言葉による暴力や物を壊すという行為が増加しているのではないか。今後も重点的に状況を見ていって欲しい。

・木村会長　：このことは，いじめの意見交換でも協議したい。

［施策の柱５］・事務局から説明

・設樂委員　：スクールカウンセラー，心の相談員の派遣は，学校にとって有益である。以前と比べると，心を痛めている子どもが増えてきており，熱心な指導だけでなく，専門家と連携した指導を行うことが重要である。今年度から，拠点校方式で小学校にも派遣されるようになり，指導の充実が期待できるが，今後さらに回数を増やして欲しい。

・事務局（久保）：カウンセラーは，教員を通して子どもとかかわることもできる。現在，小学校高学年において，心を痛めている子どもが増えており，昨年度のいじめなどの状況を踏まえ，今年度から派遣を拡充した。

・佐々木委員：教職員は子どもをよく指導してくれている。教職員に，自分を見つめるような時間がない状況があるので，指導の充実のため，ゆとりをもたせるようにして欲しい。

・事務局（高橋）：今年度，全教員にパソコンの配置を行うなど，事務の効率化を進めている。学校からの声を聞きながら，子どもと向き合う時間が確保できるようにしていきたい。

・地神委員　：教員には逆風が吹いている。やりたい人もためらっているのではないか。民間の考えからすると給与を上げることが大切だと思うが，優秀な人材の確保や人員の増加に努めて欲しい。

・事務局（高橋）：Ｐ２５の「今後の方向性」について，継続を拡充に訂正していただきたい。

［施策の柱６］・事務局から説明

・設樂委員　：今年度から実施する「頑張る学校プロジェクト」について，勤務校では，親子で読書をする取組を計画した。学校の創意を生かした取組を提案し予算を確保するこの事業は，来年度以降も継続して欲しい。

［施策の柱７］・事務局から説明

・木村会長　：全教員にコンピュータ貸与は，全国的に珍しいのではないか。

・事務局（高島）：全国的に見て，進んでいると考えている。

・金柿委員　：情報漏洩のないよう留意して欲しい。

・事務局（久保）：従来使用していた個人のコンピュータからデータを消去するソフトの導入を考えている。暗証番号の使用など，情報の流出防止に努めていく。

・山田委員　：ジョイントプログラムなど，小学校と中学校の連携は重要である。子どもだけでなく保護者同士のつながりがあるとよい。

・事務局（髙橋）：市として小中連携を重視している。児童生徒指導については既に組織化しているが，今後，他の分野でも連携強化を図っていきたい。

(2)　意見交換　○テーマ「いじめ問題の解決に向けて」

・木村会長　：事務局から現状等を説明願いたい。

・事務局（福地）から説明

・金柿委員　：親から見ていじめだと思える行為でも，本人がいじめだと思っていない場合，大人の介入の仕方が難しい。

大人から見ていい子がいじめに関わっているなど陰湿化している。

インターネットなどによる問題も生じているが，親がきちんと指導するべきことである。

今後，道徳教育を推進し，人の痛みが分かる心を育てるとともに，問題を持つ親への対応を進める必要がある。学校，保護者と市教委が連携していくことが，いじめをなくしていくことにつながると考える。

・地神委員　：生命を尊重する教育の充実が大切である。加害者が，無意識でいじめを行っている場合もあるかもしれないが，生命を尊重する教育は，重視していって欲しい。

・木村会長　：社会全体の構造が，大人も含めて「いじめ構造」になってきている中で，子どもたちのいじめ防止への意識をどのように高めるかが大切ではないか。

地域，企業など，学校・行政の外側の活動をどうしていくかが重要である。

・佐々木委員：各自治会が会議を年間数回行っている中に，学校の教職員が参加するとよい情報交換ができる。地域での人間関係を把握することは，いじめの早期発見につながるのではないか。

・島田委員　：生活の中で，痛みを乗り越えられる体験を積むことが大切であ

る。これまでの学校行事を見直し，集団の中での問題解決を経験する機会を増やすなどして，望ましい人間関係づくりの必要性を実感させるとよいのではないか。そのためには，２，３０年後を見据えた長期の計画，教育理念が必要であり，核となるのが学校行事である。

・木村会長　：学校行事は形を変える必要があるのではないか。先生と生徒だけではなく，保護者も参加できるような工夫が必要ではないか。

・地神委員　：ヘルプコールの事例について説明願いたい。

・事務局（久保）：昨年１２月から５月までに，６０件の電話相談があった。小中学生，保護者だけでなく，高校生・大人などからもある。

・地神委員　：ヘルプコールの対応は，資格を持つ方が行っているのか。

・事務局（久保）：各機関等で相談経験がある方に依頼しており，本市の研修による相談員の育成も考えている。

・伊藤委員　：「親学」の本年度の取組についてありがたく思う。

・事務局（渡辺）：問題を持つ保護者への対応は難しい。庁内の関係各課と連携しながら対応している。学校行事や保護者会などの機会をとらえて，講話などを行っている。幼稚園・保育園とも連携して行いたい。

・山田委員　：いじめの件数であるが，これらのデータは，学校が子どもに聞き取ったものなのか。

・事務局（高橋）：子どもに直接調査した数ではなく，教職員が，指導や相談・調査などにより把握した数を，いじめの定義に照らして合計したものである。

・山田委員　：児童生徒への調査が，不登校の子にいかないことがあるので，配慮が必要である。

・小野口委員：いじめが解消した事例はないのか。

・事務局（高橋）：いくつかの事例は把握しているが，今後は，積極的に事例を収集し，解決に向け効果を上げた方策等を，各学校に広めていきたい。

・木村会長　：推進状況についての協議では，改善点が中心であった。今までの成果なども積極的に表に出していくとよい。次回は，成果を中心とした協議になるような資料作成や説明を，事務局にお願いしたい。

・学校教育課長あいさつ

○　閉　会